



2022年度（一部修正）  
熊本県教育委員会

# 情報活用能力 育成ガイド

「主体的・対話的で深い学び」  
の実現に向けた授業改善

GIGAスクール構想研修パッケージ  
共通実践ポイント集

## Contents

### 情報活用能力 の育成

- ▶ ソサエティ5.0
- ▶ 高大接続・大学入試改革
- ▶ 学習の基盤となる資質・能力

### 授業で活用する ICT機器

- ▶ 実物投影機・電子黒板
- ▶ タブレット端末
- ▶ デジタル教科書・コンテンツ

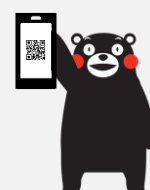
### 授業でのICT活用

- ▶ 教師編
- ▶ 児童生徒編
- ▶ ICT活用における留意点

### ICT活用推進に 向けて

- ▶ 校内研修推進体制
- ▶ ICT活用指導力チェックリスト
- ▶ 研修のサポート

ICT活用事例の  
動画コンテンツ等  
視聴可能！



# 教科等の指導 における ICT活用



学習の基盤となる資質・能力

## 1 情報活用の実践力

情報の収集・判断・表現・発信等

## 2 情報の科学的な理解

情報手段の特性の理解等

## 3 情報社会に参画する態度

情報モラル等



## ▶ Society 5.0（ソサエティ5.0）って何!?

超スマート社会が現実！

**Society 5.0**：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと

狩猟社会・農耕社会・工業社会・情報社会に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されました。



狩猟社会：Society 1.0

農耕社会：Society 2.0

工業社会：Society 3.0

情報社会：Society 4.0

**超スマート社会：Society 5.0**

内閣府ウェブサイト参照 [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/index.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)

## ▶ 高大接続（大学入試）改革

戦後最大の教育改革！

このような変化の激しい時代において、新たな価値を創造していく力を育成するために**高大接続（大学入試）改革**が実施されます。

文部科学省公表において、**思考力・判断力・表現力**の測定を重視し、コンピューターを使って出題や解答を行う「**C B T方式**」の導入が示されており、子どもたちの**ICT活用スキル**（**キーボード入力・ファイル操作**等）の確実な育成が求められています。



キーボード入力での感想記入  
実践：高森町立高森中央小学校



## ▶ 情報活用能力 = “学習の基盤” となる資質・能力

新学習指導要領の方向性

2020年度から全面実施される小学校学習指導要領の総則には、以下の点が示されています。

- 資質・能力の育成を目指す「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善の推進
- 言語能力、**情報活用能力**、**問題発見・解決能力**等の**学習の基盤となる資質・能力**や現代的な諸課題に対応して求められる**資質・能力**を**教科等横断的な視点**に基づき育成されるよう改善
- **言語活動**や**体験活動**、**I C T**等を活用した**学習活動**等を充実するよう改善するとともに**情報手段の基本的な操作の習得**や**プログラミング教育**を新たに位置付け

# ICTを組み込んだ 授業の流れ



まずは丁寧な授業設計を！

授業前

学習指導の準備

授業実施

教員によるICT活用

児童生徒によるICT活用

授業後

学習指導の評価

## ▶ 授業前：学習指導の準備



### 短時間で効果的な資料作成

分かりやすい授業を行う上で、事前の準備はともて重要です。ICTを活用することで、短時間で資料を集めることや学習プリントを作成することができます。また、画像・音声・動画・アニメーションを教材として使うことで、子供たちの学習に対する興味・関心の喚起につながり、学習課題への理解を深めることができます。

作成した教材等を先生方と共有しておくことで、校務の効率化にもつながっていきます。

## ▶ 授業実施：教師・児童生徒によるICT活用



### 教師 分かりやすい課題提示

児童生徒が主体的・対話的で深い学びを展開するためには、単元や本時の課題把握が大切です。短い時間で確実に課題を把握させるためには、資料を拡大提示したり、マーキングしたりすることで課題を焦点化させることです。全ての児童生徒が確実に課題把握をすることで、主体的な学びの第一歩となります。

### 児童生徒 情報を共有して学び合う

児童生徒の対話的な学びを活性化するには、友達の意見を参考にしたり、自分の考えと比較したりして考えることが大切です。実物投影機を使って、教師が児童生徒のノートを紹介したり、児童生徒自身が自分の考えを説明したりすることで、根拠をもとにした話合いが可能となり、対話的な学びが促されます。



## ▶ 授業後：学習指導の評価

### 学びを蓄積し、次の授業へといかす

教師がタブレット端末を活用し、児童生徒の作品を記録したり、授業中の気づきを入力したりしておくことで、児童生徒への形成的評価が容易となり、授業改善へとつながっていきます。蓄積された評価をもとに、児童生徒に対して適切な個別支援が可能になります。

また、児童生徒が一人一台のタブレット端末を活用して学習活動を行うことで、一人一人の学びが蓄積され、振り返りの充実につながっていきます。





# 授業で活用する ICT機器

## ▶電子黒板

電子黒板は、写真や資料を瞬時に拡大表示したり、映像、アニメーションなど動きのあるものを表現したりするときに有効に使えます。

提示した教材に、マーキングや補足説明などを直接画面に書き込んだり、タッチ操作により、提示されたある部分を拡大する、移動するなどしたりして、児童生徒の興味関心を高めることができます。提示されたものを保存しておけば、後で再び見せることもできます。

しかし、電子黒板は、黒板の代わりになるものではありません。黒板と併用した授業設計が大切です。



## ▶デジタル教科書

デジタル教科書は、紙の教科書内容を電子書籍化したもので、「指導者用」と「学習者用」があります。既存の教科書にはない映像資料やアニメーションなどが組み込まれ、児童生徒の学びをサポートするよう作られています。

### ■指導者用デジタル教科書

電子黒板等に投影して、クラスで課題を共有したり、課題解決に向けて話し合ったりする際に有効です。また、アニメーションで分かりやすくイメージさせながら考え方を説明することもできます。

### ■学習者用デジタル教科書

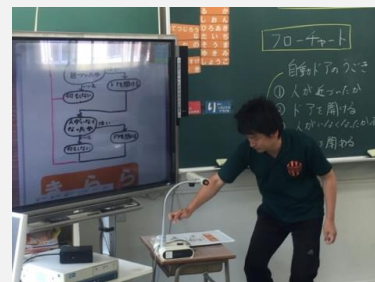
拡大縮小・強調表示・音声読み上げなどのデジタル機能を個別に活用することが可能です。また、特別な配慮を必要とする児童生徒の学習上の困難低減も期待できます。

- まずは使ってみる
- 拡大提示と焦点化
- 分かりやすい授業へのファーストステップ

## ▶実物投影機

実物投影機（書画カメラ）は、電子黒板や大型提示装置につないで、教科書や資料、作品等を拡大して映し出すことができる装置です。

教科書やワークシートを映し出すことで、クラスで課題を共有することができます。また、リアルタイムで投影されるので、ノート指導や書写や家庭科で実物を動かしながら見せることができます。また、児童生徒のノートを拡大提示することで、クラス全体に学びを共有したり、振り返りを行ったりできます。この場面をしっかりと見せたいという「ポイント」を絞り込んだ活用を目指しましょう。



## ▶タブレット端末

タブレット端末は、児童生徒にとって強力な学習ツールです。授業支援システムと連携して自分の考えをスムーズに電子黒板等に投影したり、教科書のQRコードを読み込んで、解説動画などを視聴することができます。また、プレゼンテーションソフトを使って、学んだことをまとめて発表したり、ドリルソフトを使って基礎基本の確実な定着を図ることもできます。

プログラミング教育でも、様々なコンテンツを利用でき、楽しみながら論理的な考え方を習得することが可能です。

あらゆる学習で日常的に活用することで、学習のねらい達成と同時にICT活用スキルを身につけることができます。



# 使ってみよう 電子黒板

普段使いで学びの充実を

## 拡大提示

### 提示してみよう

電子黒板の最大の利点は、見せたいものを大きく鮮明に映し出すことができることです。拡大提示することで、児童生徒の興味・関心を高めることができます。

また、写真や動画を使って学習内容を視覚的に理解させることに役立ちます。特に小学校低学年では、ノートの使い方や教科書の挿絵などを大きく映し出すことで、正しい学習方を身につけ、集中して授業に取り組むことができます。



## 分かりやすい授業へ

- 黒板と電子黒板の組み合わせを
- 視覚的な資料提示を
- 場面を精選した活用を

## 学習内容の焦点化

### 書き込んでみよう

電子黒板には、画面上に書き込む機能が搭載されています。児童生徒用の端末と連動している場合は、リアルタイムで反映されることもあります。

教師は資料やデジタル教科書に書き込むことで、学習課題やそれぞれの気付きなどを焦点化させることができ、児童生徒の学びを支援することができます。

また、児童生徒が書き込みながら説明することで、自分の考えを根拠を持って表現することができます。



## 児童生徒が発表

### 主体的な表現を目指そう

児童生徒が自分の考えを発表する時に活用してみましよう。課題解決の過程を分かりやすく説明するために、根拠を示しながら発表することや、グループで考えた提案などを筋道を立ててプレゼンすることは、児童生徒の実践的な表現力を高める上で効果的です。

相互発表する際には、体の向きを意識させ、相手意識を持って表現できるように言葉かけをしましょう。



## 知識・スキルを定着

### 振り返りに使ってみよう

前時の授業の板書を撮影しておき、授業開始時に提示することで、効率よく振り返ることが可能となり、単元の連続性を大事にした導入につながります。また、基本的な用語をテンポよく提示するフラッシュ教材も授業を活性化しながら、基礎基本を定着させることができるので有効です。

Web会議システムで外部の方から講評を受けることで子供たちの学びを価値付けることもできます。



# 活用しよう 実物投影機

いつでも使える環境を

## 使いたい時にすぐ

- 常時設置しておくこと
- 見せたいものを大きく見せる
- いろんな機能も積極的に活用

## 電子黒板と接続して

### 大きく映し出す必須アイテム

実物投影機は、見せたいものをすぐに大きく映し出すためのICT機器です。一昔前の学校でもOHP（オーバーヘッドプロジェクタ）などを使って授業をしていました。つまり、昔から大きく映し出すことは、授業における基本的な手法だったといえます。

現在、教育現場で実物投影機は広く普及してきました。電子黒板と接続して、教科書を大きく見せたり、教師が実際に手本を示すために活用されたりと、各学校で日常的に活用されています。もはや校種に関係なく、必須アイテムといえるでしょう。

特に、小学校低学年では、ノートの書き方などの学習における基本の習得にも使われています。自分のノートと同じものが大きく提示されるだけで、分かりやすさがアップします。また、多くの学校で児童生徒のノートの記述を提示し、教師や児童生徒が説明する場面が設定されている授業を見かけます。教室に常設され、「必要な時にすぐ使える」ことが重要です。



## 一歩進んだ活用を目指して

### いろいろな機能を試してみよう

単に大きく映すだけといった印象の実物投影機ですが、最近の機種は様々な機能を持つものがあります。高画質のものや動画を記録できるもの、無線で利用できるものなど多種多様です。設置されている実物投影機の機能をフルに発揮できるように、色々な使い方に挑戦してみましょう。

録画機能が搭載されている場合、簡易ビデオカメラとして活用できます。児童生徒の音読や歌唱の様子、理科の実験などをその場で撮影し、クラスで共有することも簡単にできます。

また、無線で活用できる場合、実際に児童生徒の机まで持っていき、その場からノートなどを電子黒板に提示することもできます。

さらに、Webカメラの代用として活用することもできます。カメラが固定され、アップとルーズも容易なことから、臨時休業等におけるオンライン学習でも便利に使うことができます。





# 授業を充実 デジタル教科書

使ってみることで実感しよう

## デジタルの良さを活かす

- デジタルコンテンツ活用
- 個別最適化された学びを支援
- 授業の準備時間を短縮

## デジタル教科書の機能をいかして

### 授業をサポート

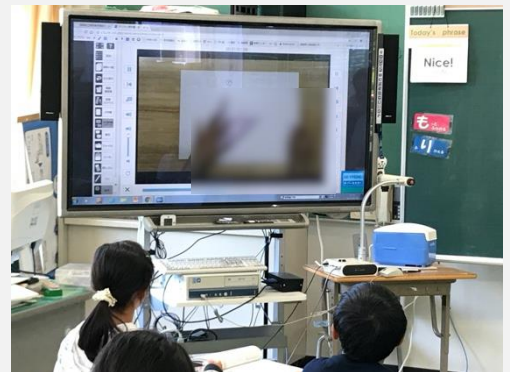
指導者用デジタル教科書は、教師の毎日の授業づくりをサポートしてくれます。国語の範読や音楽の範唱は便利な機能であり、児童生徒が活動している間に教師は個別の支援をすることができます。挿絵や写真、動画やアニメーションも組み込まれており、教師の授業準備時間が大幅に短縮されます。さらに、大切なところにアンダーラインを引いたり枠囲みをすることで視覚的な支援を行い、確実な理解を促すことができます。



## デジタルコンテンツを活用しよう

### 動画やアニメーションで分かる授業へ

学習者用デジタル教科書（指導者用・学習者用）には、数多くの動画やアニメーションが組み込まれています。これらのコンテンツを活用することで、より充実した学びを展開することができます。図形の書き方や簡単なシュミレーション、インタビュー動画など従来の教科書では難しかった具体的な指導を行うことができます。児童生徒は動画やアニメーションを見ながら学び、教師はそのサポートを行うことで、確かな学びへとつなげることができます。

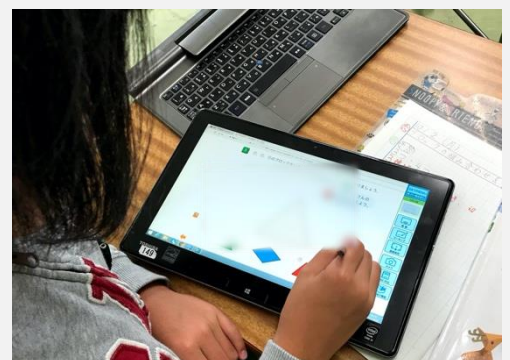


## 可能性が広がる学習者用デジタル教科書

### 個別最適化された学びの実現へ

現在、学習者用デジタル教科書の使用は、従来の教科書の使用の2分の1以下にすることとなっています（今後変更される可能性あり）。

しかし、一人一台端末環境が整った学びの中では、更に有効活用される可能性があります。自分の学びのペースに合わせて動画を視聴したり、分からなかったところの学び直しを行ったりなど、個別最適化された学びにつながっていくきっかけとなっていく可能性があります。



# 1人1台フル活用 タブレット端末

令和のスタンダード

## 撮影して活用

### まずは撮影機能から

1人1台端末は、児童生徒の学びを変えます。しかし、導入当初から効果的に使えるわけではありません。

そこで、まずは**撮影機能**をつかってみてはどうでしょうか。1人1台端末の携帯性を活かし、**観察・実験の動画や写真を撮影すれば、教室で閲覧しての考察が可能**です。

また、自分のスピーチを撮影し、**発表の仕方を客観的に分析・改善**できます。



## GIGAスクール構想で実現

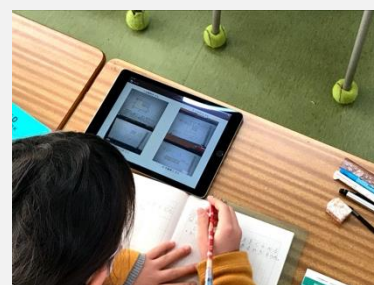
- デジカメとして気負わず導入
- 収集した情報を蓄積・整理・表現
- 「文房具」として日常的に活用

## 画面共有を活用

### 考えを比較してみよう

1人1台端末は、個別の学習時に力を発揮します。学習課題に応じて、様々な**情報を収集し、読み取った内容を判断・整理**する活動を通して、**情報活用能力を**高めていくことができます。

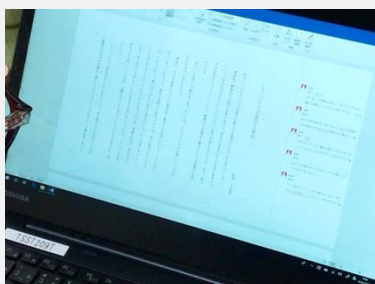
また、**学びの中で得た情報や自分の考えをすぐに他の端末と共有**することができます。**自他の考えを比較し、新たな視点を持って学びを深める**ことができます。



## 協働的な学び

### 一つのシートを全員で推敲

児童生徒が作成した作文や作品に対して、グループやクラスの友達から意見や感想をもらう活動は、すぐに始められる取組の一つです。**クラウド上で共有したワークシートを使って、互いの作文や作品の推敲をしてみましょ**う。**友達の意見や助言を参考**にしながら、さらに文章を吟味し、よりよい作文や作品に仕上げていくことができます。



## 持ち帰り学習

### 家庭と学校の学びの連携

1人1台の端末が整備されると、**家庭へ持ち帰っての学習が可能**になります。これまでプリントでの復習等が中心だった家庭学習ですが、**学校の学びの延長**として位置付けることが容易になります。

家庭におけるプレゼンテーション資料作成、インターネットを使った調査活動、保護者への聞き取り活動など、**学びの場を広げる**ことで、より学校での学びが充実します。





# 授業でのICT活用 〔教師編〕



ポイント活用で授業力アップ！

## チョーク & トーク + ICT活用

### ■ 問題解決的な学習

#### 主体的・対話的で深い学び

問題解決的な学習において、ICT活用場面を位置づけることで、授業のねらいに迫ると同時に情報活用能力を育成することができます。

教師は資料を拡大提示して、児童生徒の興味関心を高めながら明確に課題を把握させます。児童生徒は、タブレットPC等を使って情報を収集・比較・検討して自分なりの考えを持ち、説明資料を作成して班で考えを深め、全体で発表したり話し合ったりして課題解決を図ります。

一方的に授業を進める講義形式から脱却し、教師は子供たちの主体的な学びを導くコーディネータであることを意識して、授業改善を図りましょう。

導入	<b>課題把握</b>	教材との出会い 学習課題の明確な把握
展開前半	<b>個人思考</b>	様々な資料の比較検討 試行錯誤→自らの考え
展開後半	<b>集団思考</b>	相互発表での情報共有 話し合いでの学びの深化
終末	<b>理解定着</b>	子供の言葉でまとめ 学習内容定着の確認

ICT  
活用場面の  
位置付け

問題解決的な学習の流れにおける  
ICT活用の位置付け（例）

### ▶ 課題・めあてを明確に把握させる

#### 「百聞は一見に如かず」

言葉だけの説明では伝わらないことも、実際に文字や図などの資料を見せることで理解を促すことができます。

教師が資料を拡大提示し、視覚的に分かりやすく示すことで子供の視線が上がり、集中して教師の話を聞くことができます。

また、提示された資料から読み取ったことを全体で共有することで、気付きや疑問を整理しながら子供たち自身が課題やめあてを設定することにもつながります。



#### ICT活用のポイント

□説明している所や注目させたい所を、指示棒で示したり、電子ペンで書き込んだりすることで焦点化を図りましょう。

□大きく見せて終わるのではなく、読み取りからの気付きを課題解決への見通しへつなげましょう。



身近な題材を取り入れた課題設定  
実践：甲佐町立龍野小学校



立式に必要な語句を焦点化  
実践：球磨村立渡小学校

## ▶ 分かりやすく説明し、理解を深める

### 発問・指示・説明と組み合わせ

教師がICTを活用して画像や映像、音声などをタイミングよく提示しながら発問・指示・説明をすることで、児童生徒の理解を促し、学習内容の確実な定着を図ることができます。



#### ICT活用のポイント

- ☑指導のねらいや児童生徒の実態に応じた題材や素材を十分に吟味して選びましょう。
- ☑画面提示だけでは情報が流れてしまうので重要語句等は必ず板書に残しましょう。



説明スライドで課題解決への見通しをもたせる

実践：球磨村立球磨中学校



歌唱ポイントを強調してイメージをもたせる

実践：山江村立山江中学校

## ▶ 知識の定着、技能の習熟を図る

### 繰り返し！大事なところを何度でも！

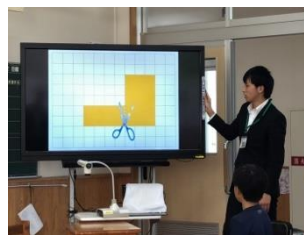
知識の定着及び技能の習熟を図るには、「繰り返し」が重要なポイントです

子供たちの習熟の度合いに合わせて、アニメーションやシュミレーションコンテンツ等を活用し、大事なことを繰り返し提示することで印象付け、学習内容の確実な定着を図りましょう。



#### ICT活用のポイント

- ☑単調な繰り返しにならないように、ICTの特性を生かして一部を隠したり順番を入れ替えたりしてインパクトのある提示を心がけましょう。



アニメーションで求積の解法を全員で確認

実践：球磨村立一勝地小学校



生徒の学習状況に即応した既習事項の振り返り

実践：県立第二高等学校

## ☑ 授業でのICT活用における留意点〔教師編〕

### 「ICT活用」そのものが目的になってませんか？

授業におけるICT活用は、場合によっては、逆効果になる場合もあります。以下のチェックリストで、ポイントを明確にした活用を心がけましょう。



Let's Check!

#### ☑ 学習活動

- ☐授業者がスライドで一方向的に説明する授業で、子供の主体的な学びが妨げられる。
- ☐講義形式の授業で、子供が話し合ったりノートにまとめたりする時間が十分でない。
- ☐板書がおろそかになり学びのあとが整理されず、授業全体の振り返りができない。

#### ☑ 提示資料

- ☐提示した資料が焦点化されておらず、子供がどこを見ればいいのか分からない。
- ☐文字や画像が小さく、教室の後ろからははっきり見えない。
- ☐提示するスライドの量が多く、次々に切り替わることで集中力が途切れてしまう。

# 授業でのICT活用 〔児童生徒編〕



子供たちの主体的な情報活用！

情報活用**経験**



情報活用**能力**



## ■ 学力向上 + 情報活用能力育成

### 授業における先端技術のフル活用

文部科学省は、1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」として、「GIGAスクール構想」を示しました。多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の構築を進めています。新時代を生きていく子供たちのために各学校においても、国が目指す方向性を踏まえた、子供たち自身による情報の利活用・ICTの積極的活用を進めていきましょう。

これまでの教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実  
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

#### ICTの「学び」への活用

- すぐにでも・どの教科でも誰でも使えるICT
- 教科の学びを深める  
教科の学びの本質に迫る
- 教科の学びをつなぐ  
社会解決に生かす



タブレットPCによる統計処理  
実践：山江村立山田小学校



テレビ会議による遠隔学習  
実践：県立高森高等学校

## ▶ 分かりやすい発表・説明

### 子供一人ひとりがプレゼンター

子供自身がICTを使って説明することで、聞く側に伝わりやすい発表をすることができます。メディアを適切に活用して考えを伝えたり話し合ったりすることは情報活用能力の育成につながります。

自分の考えを言葉で伝えるコミュニケーション力は、人との関わり合いの中で成長する子供たちにとって、とても重要なスキルです。互いの考えを伝え合う表現活動を積極的に取り入れていきましょう。



自分たちで作った  
スライドでの説明

実践：高森町立高森  
東学園義務教育学校



実物投影機でノート  
を拡大して説明

実践：荒尾市立  
桜山小学校

### ICT活用のポイント

- ☑ 伝えたい内容を焦点化して指さしたり、書き込んだりしながら発表できるようにしましょう。
- ☑ 目的意識・相手意識のある発表の立ち位置や、体の向きを子供たち自身に意識付けましょう。



## ▶ 情報の収集・比較・整理

調べて比べて整理して...読解力UP!

学力調査などから見られる課題として、「複数の資料からの読み取り」や、「根拠を持って自分の考えを整理すること」などが挙げられます。

授業において、タブレットPCの活用を取り入れることで、様々な資料を収集して比較検討し、読み取ったことから自分の考えを説明する資料を作成して発表するなど、一連の流れで情報活用能力を育成することができます。



### ICT活用のポイント

- ☑ タブレットPCは、まずは“画面が大きなデジカメ”と割り切って、積極的な活用をすすめましょう。
- ☑ タブレットPCは、授業のねらいに応じて1人1台やグループ1台等使い分けましょう。



互いの考えを共有しての考えを深める

実践：  
高森町立  
高森中学校



複数の資料からの発表資料作成

実践：  
八代市立  
八代小学校

## ▶ 文章や作品にまとめる

タブレットPCを筆記用具のように!

学習の成果物として画像や動画・プレゼン資料、プログラミングゲームなどのデジタル作品を作成することは、ICT活用スキルを高める上でとても効果的です。



### ICT活用のポイント

- ☑ 日常的にICTに親しむ時間と場所を設けたり、コンテストなどの発表の機会を活用したりしましょう。

## ☑ 授業でのICT活用における留意点〔児童生徒編〕

ICT活用は「目的」ではなく「手段」

授業で、子供にICT（特にタブレットPC）を活用させることは、主体的な学びが期待できる反面、学びの構えや学習規律が不十分な場合にはかえってマイナス要素となります。有効活用のために、ポイントチェックをしてみましょう。

### ☑ 学習活動

- ☐ ICT活用を取り入れた学習活動が、本時のねらいとつながっていない。
- ☐ ICTを使うだけで授業が終始し、学習活動が子供まかせになってしまう。
- ☐ 物珍しさからICT機器に興味がいってしまい、先生の指示を聞かない。
- ☐ 教科書やノートとの連携がとれておらず、学習内容の押さえが不十分となる。
- ☐ ICT環境整備が不十分で機器の不具合がでるなどして学習の流れが中断される。



Point Check!

# ICT活用推進に向けて



ICT活用は授業改善のチャンス！

## ■ ICT活用による授業改善

## ■ 学力の向上

## ■ 情報活用能力の育成



### ■ 校内研修推進体制 ～ICT活用を視点に～

#### 1人の100歩より、100人の1歩！

ICT活用の進んでいる学校では、校内研修や職員室での話題で、ICT活用を取り入れた授業のアイデアや工夫などが日常的に共有されています。

ICT活用を切り口として、授業づくりについて互いに学び合うことが、学校総体としての授業力向上を図る好機となるのです。



ワークショップでの協議  
実践：甲佐町立甲佐中学校



ファシリテーションの活用  
実践：山江村立万江小学校

### ■ ICT活用指導力チェックリスト

文部科学省では、ICT活用指導力A～Dの4つの項目を示しています。ここでは、項目B「授業にICTを活用して指導する能力」・項目C「児童生徒のICT活用を指導する能力」について紹介します。教師自身がICT機器を活用し、児童生徒が1人1台端末をフル活用できるように、自己チェックしてみましょう。

B-1	学習に対する子供の興味・関心を高めるために、PCや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-2	子供一人一人に課題を明確につかませるために、PCや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-3	わかりやすく説明したり、子供の思考や理解を深めたりするために、PCや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-4	学習内容をまとめる際に子供の知識の定着を図るために、PCや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。
C-1	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。
C-2	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。
C-3	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるようにする。
C-4	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。

### ■ 先生方の研修をサポート

#### 講師派遣研修

くまもとGIGAスクールプロジェクトでは、研修を希望する市町村立学校及び県立学校に対し指導主事を派遣して、タブレット端末やデジタル教材等を活用した授業への助言・研修支援を行います。

教育事務所、教育政策課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課及び県立教育センターの指導主事を派遣 ※派遣費用は不要

#### ニーズに合わせた研修内容に

- ICT機器操作体験研修
- 研究授業での講評・助言
- ワークショップ型研修
- ICT活用授業映像視聴
- 模擬授業の参加体験

その他、御要望・御希望に応じた研修支援を行います！